



西泰

箕作麟祥

善訓

蒙

前編

下

9  
3668  
3止





泰勸善訓蒙卷之下

箕作麟祥譯述

第五篇

族人ニ對スル務

第四百十三章

人ニ男女アリテ互ニ姻ヲ結ヒ以テ族ヲ爲スハ

是天ヨリ命スル所ナリ故ニ族人ニ對スル務ハ

亦天ヨリ命シタルモノニシテ人之ニ背ク可カラズ

第四百十四章

族人ニ對スル務ヲ分テ四種トス曰ク夫婦相互

ノ務親ノ子ニ對スル務子ノ親ニ對スル務兄弟

8388  
8

昭和十三年  
二月五日  
麟祥



門 3668 卷 3

善言訓蒙前編 卷下 名古屋學

姊妹相互ノ務是レナリ

夫婦相互ノ務

第百四十五章

夫婦ハ互ニ貞實ニシテ相助ケ相親ミ相信スルヲ以テ其務トス

第百四十六章

夫ハ身體壯剛ニシテ志力強ク見聞博ク知識多ク以テ其婦ヲ保護シ且ツ家事ヲ治ムルニ其婦ヲ佐ク可キノミニ非ス能ク教誨ヲ垂レ警戒ヲ加ヘ以テ善ヲ行ハシム可シ

第百四十七章

婦ハ其身體志力固ヨリ微弱ニシテ其見聞知識モ亦狹隘ナルモノナリ故ニ常ニ夫ノ訓誨ニ信從シテ和順不可シ

親ノ務

第百四十八章

親ハ其子ヲ養育シ且ツ之ヲ教誨シテ其知識志氣ヲ増サシメ其務ヲ説諭シ此世人危險ヲ戒告ス可シ

第百四十九章

親ハ其子ニ己ノ產業ヲ繼カシム可キノミニ非ラス己ノ徳不徳モ亦其子ニ及ホス可キモノナ

名古屋學



リ故ニ子ニ貞誠有徳ノ美名ヲ傳ルハ巨萬ノ財  
ヲ傳フルヨリ貴シトス

第百五十章

親タル者其子ノ尊敬順從ノ心ヲ得ント欲セハ  
其子ノ良心ヲ害スルヲ勿レ又子ノ面前ニテ羞  
慚ス可キ言詞ヲ吐キ或ハ<sup>キ</sup><sup>ズ</sup>顔ス可キ所行ヲ爲  
スヲナク殊ニ子ヲ警戒スルニ當リ怒ヲ發スル  
ヲ勿レ苟モ怒ヲ發スルヲアル時ハ必ス其尊敬  
ハ心ヲ失フ可シ是<sup>ニ</sup>審司ノ<sup>ニ</sup>重囚ヲ吟味スル時敢  
テ怒聲ヲ發シ之ヲ責ムルヲナク嚴肅寛裕ニ言  
テ其罪ヲ問テ可<sup>キ</sup>ニ等<sup>シ</sup>罪<sup>ニ</sup>シテ其具問味<sup>テ</sup>

凡ソ人ノ順從ノ心ヲ得ントスル者ハ自カ<sup>ラ</sup>温  
柔ニシテ耐忍シ且嚴肅ノ氣象ヲ失ハサルヲ以  
テ必要トス罪<sup>ニ</sup>答<sup>ス</sup>ル<sup>ニ</sup>其人其<sup>ノ</sup>面<sup>ニ</sup>テモ  
人猛獸ヲ馴ラスニ溫柔耐忍ニシテ其子ヲ教  
ルニ至テハ却テ怒ヲ發スル者アリ是其子ヲ待  
ツヲ虎狼ヲ待ツニ若カサルモノトス  
第百五十一章  
怒ハ猶<sup>ホ</sup>一時ノ狂疾ニ等シク怒ニ乘シ行フ事ハ  
常ニ道理ニ背キ勸善ノ教ニ戾ルヲ以テ人ノ必  
ス慎テ避ク可キモノトス且ツ父ノ其子ヲ譴責  
スルニ當リ怒ヲ發スルハ殊ニ之ヲ禁ス



第一百五十二章

人其幼稚ノ時ハ自カラ踐行ス可キ方ヲ知ラ  
不<sup>フミラコト</sup>只其見聞スル所ニ習ヒ父母ノ習慣ヲ得テ其  
常ト爲ス故ニ父母ハ平生稚子ニ善ヲ爲ス事模  
範ヲ示ス可シ若シ稚子ニ惡行アルハ即チ父母  
過ナリ

第一百五十三章

古羅馬ノ「セロト」云ハル名儒「シ」<sup>ル</sup>期「イ」ノ<sup>ル</sup>御<sup>ル</sup>府  
「空ル」レ「ス」カ罪ヲ咎メシ時其人其子ノ面前ニテ  
亂行ヲ爲シ終ニ子ヲシテ己ノ惡ニ浸染セシメ  
シ「ヲ」特ニ嚴譴シタリト云フ蓋シ父母ハ如何

ニ丁寧懇切ニ其子ヲ教訓スルト雖モ若シ傍ラ  
惡シキ所爲ヲ示ス「ア」ル時ハ全ク其益ヲ失フ  
可シ

「ヤロ」氏ノ曰ク

辭ヲ盡シテ衆ニ德ヲ説ク時ハ衆皆德ニ  
入ラシ「ヲ」ヲ思ヒ行ヲ以テ人ニ德ヲ示ス  
時ハ人直チニ德ニ進ム可シ

是德ヲ實際ニ行フハ之ヲ口ニ講スルヨリ其益  
多キヲ云フ  
「ボウル」子「ト」氏ハ曰ク  
子ヲ教育スルニ如何ニ訓誨褒賞譴責ヲ



加フト雖モ父母ノ習慣惡シク其所爲正  
 シカラサル時ハ竟ニ其益ナシ夫レ親ノ  
 威權ハ子自カラ默從セサルノ意ヲ起シ  
 親ノ慈愛ハ子必スレモ感戴セサル事ア  
 リト雖モ平常親ノ行フ所ニ至テハ子覺  
 ヘス習フテ以テ規範ト爲レ後漸ク成長  
 スルニ及テハ如何ニ之ヲ改メシト欲ス  
 ト雖モ容易ニ變スルヲ難シ故ニ親タル  
 者苟モ其子ニ惡習ヲ移スナク常ニ自  
 カラ善ヲ行ハ、其子必ス之ニ習フテ善  
 道ニ入ル可シ蓋シ父母其威權ヲ以テ子

一善ヲ行ハシメントスル時ハ其子往々  
 偽善者トナルコトアリト雖モ父母ノ善行  
 ノ見テ善習ヲ得タル者ハ必ス眞ニ善道  
 一入ル可シ

子ノ務

第百五十四章

權アレハ必ス務アリ務アレハ必ス權アリ故ニ  
 親ハ子ヲ教育スルノ務アレハ子ハ親ヲ尊敬シ  
 テ其命ニ從フ可キノ務ア明執ニ父母ノ命ニ  
 父ハ家ノ長ニシテ母ハ其命ヲ奉レ以テ家族ヲ  
 指揮ス故ニ族人ハ皆其意ニ順フ可クシテ殊ニ



子タル者ハ父母ノ命ヲ遵守ス可シ

第百五十五章

孝順トハ遲疑スルコトナク即時ニ父母ノ命ヲ行  
フヲ云フ

第百五十六章

不順トハ父母ノ禁スル所ヲ爲シ又ハ其命スル  
所ヲ爲サ、ルヲ云フ

不順ノ子ハ多クハ自カラ禍ヲ招ク者トス是レ  
父母師傅ノ禁令ハ其子ノ及ハサル所ヲ補助ス  
ル爲メ設クルニ因リ若シ之ニ逆フ時ハ唯其父  
母師傅ノ心ヲシテ憂ヘシムルノミニ非ス常ニ

己ノ不幸ヲ生ス可キ力故ナリ

第百五十七章

父母ハ其子ヲ指令スルノ權ヲ有シ且ツ其子ノ  
爲メ有益ニシテ道理ニ合フタル事ヲ命スルモ  
ハナリ故ニ子タル者ハ孝順ヲ盡クシテ其教誨  
ヲ守ル可シ

第百五十八章

父母ハ我ヲ養育シテ且ツ其年齢我ヨリ高ク其  
知識我ヨリ優レルニ因リ道理ニ就キ之ヲ論ス  
ルニ我ヲ指令ス可キノ權アルノミニ非ス國ノ  
法律ニ於テモ子ノ惡行ヲ爲シ又ハ親ノ命ニ逆



其時ハ父母之ヲ審院ニ訟ヘ暫時其子ヲ禁錮セ  
 シメテ之ヲ懲治スルノ權アリ  
 第百五十九章  
 天ハ我ニ性命ヲ授ケ我ヲ守護シテ幸ヲ與フル  
 モノナリ故ニ我之ヲ崇敬セサルヲ得ス父母ハ  
 我ヲ教エ我ヲ養フテ裨益ヲ爲スモノナリ故ニ  
 我亦之ヲ崇敬セサルヲ得ス  
 第百六十章  
 父母ノ天ニ代テ我ヲ指令スルノ權アルハ天道  
 ト國法トニ於テ之ヲ定メタルニ因リ我之ヲ尊  
 敬セサルヲ得ス

第百六十一章

人ハ己ニ優レル者ヲ尊敬ス可シ夫レ父母ハ己  
 ニ優レル者ナリ故ニ之ヲ尊敬セサルヲ得ス  
 父母過アレハ子慎ンテ之ヲ隱諱ス可シ必ス其  
 醜ヲ露ハス下勿レ  
 第百六十二章  
 父母過アルトモ子ハ其意ニ逆フ可カラス  
 宜シク尊敬ハ意ヲ失フナク舒ニ之ヲ  
 諫ム可シ  
 父母ハ我カ幼稚ノ時我ヲ愛育シ我カ爲メニ辛



苦勞動セシモノナリ故ニ我最モ其恩ヲ顧ミテ  
之ニ報ウ可シ凡ソ我ニ益ヲ授ケシ者ハ我之ニ  
報ウ可キノ務アルニ因リ能ク孝順ニシテ辛苦  
ヲ辭セス父母ヲ助ク可キハ是レ我カ免ル可カ  
ラサル務ナリ

第百六十三章

父母老衰シテ既ニ勞動スルヲ能ハサルニ至ラ  
ハ我勉勵シテ其恩ニ報イ之ヲ扶助ス可シ  
父母卑賤ニシテ我幸ニ高貴トナルヲ得ルトモ  
父母ノ恩ヲ忘ル、トナク之ヲ尊敬ス可シ若シ  
高位高官ニ昇リ父母ノ恩ヲ忘ル、時ハ其罪愈

大ナリトス

父母ハ其子ノ顯榮ヲ以テ己ノ幸ト爲スモノナ  
リ故ニ子タル者其恩ヲ忘レテ惡業ヲ行ヒ父母  
ヲレテ憂ヘシムルヲ勿レ

概シテ之ヲ言ハハ我父母ニ事フルハ猶我子ノ  
我ニ事フルヲ欲スルカ如クス可シ

第百六十四章

子ノ父母ニ事フ可キ務ハ天ヨリ命シタル所ニ  
シテ人之ニ背ク可カラス故ニ若シ不孝ノ者ア  
レハ人皆忿罵シテ天ニ逆ヒ國ニ叛ク者トシ之  
ヲ咎ム殊ニ富貴ニシテ其父母ヲ顧ミサル子ハ



其罪更ニ重シトス

古希臘ノアテニス國ノ賢士ソロシ其國ノ法度ヲ立テシガ或人其中ニ弑親ノ罪ヲ罰スル箇條ノアラサルヲ怪ミ之ヲ問フソロシ答ヘテ曰ク人如何ニ兇惡ナリト雖モ敢テ父母ヲ弑スルノ大逆ヲ爲スニ至ル者アルマジ我之ヲ思フニ因リ其罪犯ノ箇條ヲ設ケスト

第百六十五章

人ハ其父母ヲ愛戴ス可キノミニ非ス又其祖母ヲモ愛敬ス可シ蓋シ祖父母高年ニシテ衰病ニ罹ル時ハ懇切ニ之ヲ看護ス可キヲ更ニ其父

母ヨリモ厚クス可シ

師傅ニ對スル務

第百六十六章

師傅ハ父母ニ代テ兒童ヲ訓誨シ善ニ進ムノ道ヲ教フル者ナリ  
師傅ハ我ニ善教善規ヲ授ケ又學術ヲ教エテ我カ資益ヲ爲スニ因リ父母ニ等シク之ヲ敬愛シ之ニ從順シテ其恩ヲ顧ミル可シ

第百六十七章

師ハ謝金ヲ呈スルノミヲ以テ既ニ其恩ニ報イタリト思フ可カラス凡ソ師ノ弟子ヲ教導スル



勞ハ飲食衣服ノ類ノ彼此相換ヘ賣買ス可キカ  
 如キニ非ス蓋シ謝金ハ唯師ノ時日ヲ費シタル  
 ニ報ウルノミニシテ我カ畢生間ノ資益トス可  
 キ學業ヲ教工我知識ヲ弘メタルノ大恩ハ尙未タ  
 報イサルナリ故ニ亦其大恩ヲ顧ミサル可カラス  
 古昔師傅ニ謝金ヲ呈スルノミヲ以テ全ク其恩  
 ニ報イタリト思ヘル子弟ハ之ヲ忘恩者ナリト  
 テ賤メタリ

兄弟相互ノ務

第百六十八章

兄弟ハ其根ヲ同ウスルモノナリ故ニ互ニ友悌

ナル可キノ務アリ  
 兄弟ハ生レテ同シ家屋ニ居リ死シテ同シ墓地  
 ニ葬ル可キモノナリ故ニ互ニ親和セサル可カラス  
 兄弟ハ猶<sup>ホ</sup>手指ノ如ク永ク離斷ス可カラス

第百六十九章

互ニ友悌ニシテ相保護スルハ兄弟ノ最重ナル  
 務ニシテ其他ノ務ハ此二箇ノ大務ヨリ生スル  
 所ナリ  
 又兄弟ハ互ニ勸戒シテ善行ノ規範ヲ示シ以テ  
 善ニ進ムノ方ヲ相勉ム可シ  
 兄ハ年長ニシテ弟ニ優レルニ因リ能ク弟ヲ教



訓レテ之ヲ保護ス可ク苟モ惡道ニ誘引スルヲ  
勿レ若シ弟ノ惡ヲ爲サントスル時ハ兄ハ善行  
ノ規模ヲ示シ以テ之ヲ制ス可シ  
弟ハ父母ノ在ラサル時殊ニ兄ニ信從シテ倚賴  
ス可シ  
凡ソ人我ニ害ヲ加ヘシ時ハ我其罪ヲ宥シ我若  
シ人ニ害ヲ加ヘタル時ハ悔悟シテ其罪ヲ謝ス  
可キト是天道ニ合フモノニシテ兄弟ノ間ニハ  
就中此教ヲ守ル可シ  
若シ兄弟ノ間ニ爭論ノ起ル時ハ速カニ之ヲ裁

第百七十一章

斷スル者ヲ立テ其爭ヲ和ス可シ若シ之ヲ爲サ  
ズレハ死シテ猶恨ヲ懷クニ至ルノ恐アリハ其  
兄弟ハ過失アリトモ互ニ慎ンテ之ヲ隱諱ス可シ  
兄弟ハ一家族ヲ爲シ互ニ親睦ス可キ者ナレハ  
我カ兄弟ニ不善アル時ハ人亦我ヲ其責ニ任シ  
我カ兄弟ニ德アルハ人亦我ヲ稱譽ス可シ故ニ  
兄弟ノ惡ヲ露ハササルハ是亦我ニ益ナリ  
人友悌ナルヲ欲セハ一身ノ欲ヲ抑制シテ常ニ  
兄弟姉妹ヲ惠愛シ其益ヲ思フヲ猶己ノ益ヲ欲



スルニ等シクス可シ  
第百七十三章 一良ハ格ハ唯博シク常ニ

古羅馬帝「ウギ」ス左スノ頃兄弟三人父ノ家産  
ヲ平等ニ分チシ者アリシカ其後國內亂レ兄弟  
中ノ二人不幸ニシテ産業ヲ失ヒシ時其一人之  
ヲ扶助シ且以更ニ己ノ産ヲ分テテ其二人ニ與  
ヘタリ一室ヲ共ニ居ルニ至リテ其二人ハ  
兄弟ト姉妹トス務實ニ之ヲ勤勤ス下レ

第百四十七章

兄弟ト姉妹トノ間ニ自カラ其務アリ兄弟ハ其  
姉妹ヲ保護シ又姉ハ往々母ニ代リテ其弟ヲ照

管スルコトアリ  
兄弟姉妹互ニ親和セサレハ家ヲ齊治スルコトヲ

得ズベリコトノ曰ク  
汝ノ姉妹ヲ丁寧ニ接遇シ其溫柔ノ性ヲ

又尊重大ニ其汝ノ心ヲ感化スルヲ謝ス可シ  
又姉ハ又姉妹ハ性質軟弱ニシテ激覺シ易キ者

故ニ父ナレハ其憂痛ヲ慰安シテ常ニ之ヲ親愛  
スルハス可シ

亦ハ族人相互ノ務  
第百七十五章

總テ族人相敬愛ス可キノ務ハ其疎遠ナルニ隨



七稍々薄レト雖モ其互ニ親愛スルコト猶<sup>ホ</sup>兄弟ニ  
等シカル可シ十五章  
叔伯父ト甥ト互ニ行フ可キ務ハ父子ノ務ニ比  
スレハ差輕シト雖モ其基ク所ハ猶相等シトス  
叔伯父ハ父ノ兄弟ニシテ父ニ代ルヲ得可キ者  
ナリ故ニ往々父ニ代リテ甥ノ照管ヲ爲スコトアリ  
又甥ハ其叔伯父ノ恩ニ報イ之ヲ敬シ之ニ順フ  
コト猶<sup>ホ</sup>其父ノ如クス可シ  
其他族人ハ皆其祖先ヲ同ウシ共ニ一家ヲ爲ス  
モノナリ故ニ互ニ親愛シ互ニ保護シ其家名ヲ  
損セス之ヲ子孫ニ傳フルヲ以テ其務ト爲ス可シ

老輩ニ對スル務  
第一百七十六章

老者ハ之ヲ尊重ス可シ凡ソ老者ノ能ク其生業  
ヲ成就シ多少ノ辛苦ニ堪ヘ能ク族人及ヒ國家  
ニ對スルノ務ヲ行ヒ以テ高年ニ及ヒ其身體衰  
弱<sup>レ</sup>或ハ氣力耗<sup>ル</sup>至<sup>ル</sup>於<sup>テ</sup>少年子弟之ヲ  
敬愛シ且ツ之ヲ慰安シテ適意ニ其一生ヲ終ラ  
シム可キコト勉ム可シ

第一百七十七章

古今常ニ老者ヲ尊重セサル者ナク就中古昔「エ  
ジプト」ス「パルタ」羅馬等ノ國ニ於テハ最モ老者



ヲ敬シ其來ル毎ニ衆人必ス席ヲ讓リ若シ年少者老者ノ爲メニ席ヲ避ケサル時ハ罪アリトシテ之ヲ譴責シタリ

朋友ノ交

第百七十八章

朋友ノ交ハ互ニ親愛シテ相扶持スルニ在リ蓋シ此務ヲ行フ可キハ天意ト人情トヨリ出ル所ナリトスハ古賢ハ皆朋友ト交ハルニ親愛情義ヲ盡クシタルハ規矩トス可シ

セントトマスハ朋友ニ親愛情義ヲ盡クスヲ

指シテ徳ト云ヒ又セントポウルハ當時ノ人ノ不善ナルヲ論シ其朋友ノ交ヲ知ラサルヲ以テ罪ノ大ナルモノトセリ人ノ朋友アルハ一美事トス蓋シ朋友ハ我カ幸福ヲ増シ我カ不幸ナル時ハ我ヲ扶クルノ益アリ

第百七十九章

人ハ朋友ヲ擇ムニカメテ留意ス可シ蓋シ正直有徳ニシテ智識アル者トノ交ヲ求メ不善人トノ交ヲ避クルヲ以テ務トス可シ若シ人惡友ト交ヲ結ブ時ハ己モ亦終ニ其惡ニ化シ人ノ誅ヲ受クルニ至ル可シ古諺ニ曰ク



其友ヲ視ル時ハ其人ト爲リヲ知ル可シ  
 第百八十章  
 朋友ト交ルハ猶族入ト親ムカ如ク其友ヲ親愛  
 スルヲ猶其兄弟ノ如クス可シ  
 朋友ノ窮乏ナル時ハ之ヲ扶ケ朋友ノ危難ニ陷  
 イラントスル時ハ之ヲ救フ可シ此時ニ當テハ  
 死ヲ顧スシテ之ヲ爲ス可シ

第百八十一章

古シキ國王デニス其學士ダモンヲ死  
 刑ニ處セントセシ時ダモンハ死ニ就ク前家族  
 ニ別ヲ告ケ且ツ家事ヲ處置ス可キ爲メ期日ヲ

定メ猶豫ヲ得テ其家ニ至ラシトテ乞ヘリ其友  
 ニピチアスト云フ者アリシカ保人トナリテ若  
 シダモンノ獄ニ歸リ來ラサルトアラハ自カラ  
 代テ刑ニ就ク可キヲ獄吏ニ約セリ然ルニダ  
 モンハ期日ニ至リ果シテ其言ノ如ク獄ニ歸リ  
 來リ自カラ囚レニ就キテ從容死ニ處セラレン  
 トテ乞ヘリ國王デニス此事ヲ聞キ朋友交誼  
 ノ厚キニ感シダモンノ罪ヲ赦シテ剩ヘ自カラ  
 兩士ト交ヲ結ハントテ求メシトソ是朋友交誼  
 ノ互ニ厚キ規範ト爲スニ足ル可シ

第百八十二章



古ハ唯朋友交誼ノ斯ク深カル可キヲ教エシカ  
 近世ニ至テハ更ニ其教ヲ改メ獨リ朋友ノミニ  
 非ス亦衆人ヲ惠愛シ人ヲ愛スルヲ猶己ヲ愛ス  
 ルカ如クナル可シトノ善教ヲ設ケタリ  
 第百八十三章  
 人其朋友ニ益ヲ爲サントスルニハ正直ノ道ヲ  
 以テ之ヲ爲ス可シ又朋友ノ助ケヲ得ントスル  
 ニモ勸善ノ教ニ背キタル事ニ因リ之ヲ借ル可  
 カラス是人朋友ノ交ヲ厚ウセントスルトモ勸  
 善ノ法則ニ違フテ之ヲ爲ス可カラサルニ因ル  
 人朋友ヲ扶助スルハ其務ノ一ナリト雖凡其扶

助ヲ爲スニ付キ不正ノ事ヲ行フ可カラス  
 希臘ノ詩家「レモニデス」或事ニ付キ一日其友「テ  
 ィストクレス」カ許ニ來リ其助ケヲ得ン「テ」乞  
 ヘリ然ルニ其事ノ不正ナルニ因リ「テ」ミス「トク  
 レス」之ヲ肯ンセスレテ曰ク兄ハ詩家ナリ若シ  
 詩ヲ作ル「ト」拙ナラハ人誰カ兄ヲ貴重セシ余ハ  
 吏ナリ若シ國法ヲ破ラハ人誰カ我ヲ信セシヤト  
 奴婢ニ對スル務并主長ニ對スル務  
 第百八十四章  
 奴婢ハ家族ノ一部トモ謂フ可キモノナリ故ニ  
 其主長ヲ尊敬シテ其命ニ順從シ以テ之ヲ助ケ



之ヲ護ス可シ又主長ハ之ニ報イ僕婢ヲ使役ス  
 ルヲ寛裕ニシテ恩惠ヲ施シ其規矩トナリテ善  
 ヲ教エ惡ヲ制シ之ヲ指令スルニ非理ヲ以テス  
 可カラス俸金ヲ與フルニ約ニ違フ可カラス  
 主長タル者其僕婢ノ尊敬ノ心ヲ得ントスルニ  
 ハ苟モ天ヲ誅リ善道ヲ嘲リ官府ヲ罵ル等ノ事  
 ヲ爲ス可カラス概シテ之ヲ言ハシ我カ僕婢ヲ  
 待ツホ猶我カ君王ニ遇セラルホヲ欲スルカ如  
 クス可シ

第百八十五章

僕婢父母ノ令ヲ傳フル時ハ子弟之ヲ奉承ス可

シ又子弟ハ僕婢ヲ待ツホ寛ナル可クシテ若シ  
 不慮ノ禍患ニ罹ルホアテハ忽チ其身モ奴僕ト  
 ナルニ至ル可キヲ念ルホ下勿レホ

第百八十六章

信實正直ニ其主長ニ事フル僕婢ハ官ヨリ之ヲ  
 賞譽ス

往時ヨリ僕婢其主長ノ窮乏ニ陥イリ零落セシ者  
 ヲ扶助シタルニ因リフシメ法國ノ大學館ヨリ褒賞ヲ  
 與ヘシホ數度アリシカ今此ニ三年前ニ婢ノ徳  
 行ヲ賞シホ褒牌ヲ與ヘタル事迹ヲ記シ以テ善ヲ  
 爲ス僕婢ハ國ノ恩賞ヲ受ク可キホヲ表明ス



「エリザベト、コロテ」ト云ヘル婢アリ巴勒府ニ  
 テ「シシ」ト云ヘル數千金ヲ貯ヘ頗ル富饒ナ  
 ル女主ニ多年ノ間仕ヘタリシカ千八百五十  
 年ニ「シ」ト云ヘルハ意外ノ禍ニ罹リテ全ク其産業  
 ヲ失ヒ殆ト一錢ノ餘資無キニ至リ僕婢ヲ畜  
 不能ハス因テ皆之ヲ放遣セントセシニ獨リ「エ  
 リザベト」ハ其主家ヲ辭スルヲ肯セス陰力ニ  
 僅カノ職業ヲ爲シ其不幸ナル主ノ窮乏ヲ助  
 ン「エ」ヲ謀リ俸金ハ固ヨリ受クルヲナク晝夜勤  
 勵シテ其主ニ給仕レ少許ノ暇アレハ自カラ職  
 業ヲ爲シ錢ヲ得テ大ニ其女主ノ生計ヲ助ケタ

リ蓋ン此婢其主ノ斯ク窮迫ニ至ルヲ救フト雖  
 モ毫モ徳色ヲ帶フルヲナク舊ニ依テ其主ニ順  
 從シ之ヲ尊敬セシニ因リ更ニ衆人ノ感賞ヲ増  
 シタリ「エ」ハ其恩ヲ深クシテ「エ」ハ大ニ  
 カテリ「シ」ト云ヘル婢アリ或ル  
 商家ニ仕ヘテ些少ノ俸金ヲ貯ヘ之ヲ其主家ニ  
 托シ置キシカ主家不幸ニシテ折本多ク終ニ其  
 家産ヲ失ヒ「カテリ」ト云ヘル婢ニ俸金モ全ク  
 之ヲ失フニ至レリ然レカテリ「シ」ハ毫モ恨悔  
 ノ意ナク主家ノ不幸ヲ憫ムノ意切ナリ或ハ他  
 主ニ仕ヘ更ニ利ヲ獲可キ「エ」ヲ勸ムル者アレト



モ敢テ從ハス俸金ヲ受ケスシテ其老主夫婦ニ  
仕ヘ自カラ錢ヲ得テ其貧ヲ救ヘリ然ルニ其主  
ハ憂悶ニ堪ヘス幾クナラスシテ死去シ其婦モ  
亦盲者トナリシカカテリトシハ愈<sup>キツ</sup>留意シテ厚  
ク之ヲ扶助シ敢テ倦<sup>ウツ</sup>怠<sup>ラ</sup>ノ念ナク後其盲主老病  
ニ罹リ憂苦ノ中ニ多年ヲ送り終ニ死去セシカ  
死ニ臨ミカテリトシニ向ヒ深ク其待養ノ厚キ  
ヲ謝シ死後必ス其恩ヲ忘レサルヲ誓ヒ大ニ悦  
ノ色ヲ顯ハシタリト因<sup>リ</sup>ニ其主ハ其主ニ對  
第六篇 國ニ對スル務  
第百八十七章

國ノ數萬ノ家族相合シテ成ル者ニシテ上ニ君  
長アリ法律ニ循ヒ之ヲ管理ス  
家ヲ治ムルニ家長アルヲ要スルカ如ク國ヲ統  
ルニ君主ナキ能ハス  
憲章ノ立定セシ國ニ於テハ士民皆其法令ヲ守  
ル可ク君主ト雖モ之ニ背クヲ得ス

第百八十八章

文明開化ノ國ニ生レタル者ハ政府官廳アリ  
士民ノ性命自主財貨ヲ保護シ貿易ヲ爲シテ有  
無ヲ通セシメ百工アリテ須用ノ物ヲ辨セシメ  
兼テ又飾粧ノ物ヲモ得セシメ又貧院アリテ貧



者ヲ恤ミ孤院アリテ孤者ヲ救ヒ學校アリテ衆  
庶ヲ教エ其他一人備ハラサルモノナク以テ無  
數ノ益ヲ受ク可シ  
此國ニ生ル者ハ此等無限ノ益ヲ受クル力故  
左ノ務ヲ行ヒ以テ國恩ニ報セサルヲ得ス

國法及官府ヲ尊敬スル事

第百八十九章

國民ノ最大ナル務ハ國法ヲ尊ミテ百事之ニ倣  
ヒ官府ヲ敬シテ萬件之ヲ助クルニ在リ

第百九十章

前章ノ道理ニ因リ士民皆其君主及ヒ衙門ヲ崇

敬シ小吏ト雖モ之ヲ尊ム可キノ務ヲ生ス  
士民若シ此務ヲ行ハサル者アル時ハ忽チ嚴罰  
ヲ蒙ル可シ總テ言詞動作ヲ以テ帝王ヨリ田野  
ノ監吏ニ至ル迄之ヲ辱メ又ハ脅シタル者ハ至  
當ノ刑ニ處セラル可シ

第百九十一章

國ノ法令ニ循フハ唯其令スル所ヲ行ヒ其禁ス  
ル所ヲ避クルノミヲ以テ足レリトセス法令ノ  
公正純善ナルニ倚賴シ人ヨリ害ヲ受クルト雖  
モ私ニ之ヲ報イントスルヲナキヲ必要トス故  
二人若シ非理ニ我財貨ヲ掠法スルト雖モ力ヲ



用七強テ私ニ取還サントス可カラス殊ニ人ノ  
我カ物ヲ奪ヒタル時償トシテ彼ノ物ヲ私ニ取  
用ヒ又人ノ我カ物ヲ還サ、ル時償トシテ彼ノ  
物ヲ私ニ奪フ可カラズ總テ此等ノ害ヲ受ケタ  
ル時ハ審院ニ乞フテ其裁斷ヲ得可シ

第百九十二章

國ノ法度我カ意ニ適セス又審院ノ裁斷ヲ不正  
ナリト思フト雖モ我慎ンテ其法度ヲ守リ其裁  
斷ニ循フ可シ若シ人々恣ニ己ノ意ニ適セサル  
法度ヲ犯シ己ノ不正ナリト思フ裁斷ニ背ク時ハ  
國中大亂ニ及ヒ國法官府モ共ニ存スルヲ得サ



レニ至ル可シ  
古賢ツコラテスハ人ノ誣告ニ因リ死刑ニ處セ  
ラレントセシ時敢テ其冤ヲ申理セサリレトナ  
リ是其裁斷不正ト雖モ國ノ法度ニ背ク惡名ヲ  
後世ニ遺サ、ルヲ欲スルカ爲メナリ  
租稅ヲ納ムル事  
第百九十三章  
士民ハ皆政府ノ守護ニ因リ身體財貨ヲ全ウス  
ルノ益ヲ受クルモノナリ故ニ其益具報シ可ク  
カ爲メ家産ノ多寡ニ准シ政府ハ租稅ヲ納ム可  
シ法國ノ大學士「モンテスキュー」曰ク



士民己ノ財貨ヲ安穩ニ所有シ之ヲ適意  
 二用フル大益ニ報イ其財貨ノ少一部ヲ  
 政府ニ租稅トシテ納ム可シ是政府ノ歲  
 入タリ  
 前文ニ記スル如ク士民ハ皆官府ノ守護ヲ受ケ  
 安穩ニ人ト交リ開化文明ノ諸益ヲ得ルモノナ  
 リ故ニ之ニ報イテ租稅ヲ納ムルヲ當然ナリトス  
 第百九十四章  
 兵無ケレハ國人ヲ護シテ外寇ヲ防ク能ハス吏  
 無ケレハ國ヲ治メ法度ヲ行フ能ハス道路無ケ  
 レハ國中ノ往來ヲシテ便ナラシムル能ハス溝

渠無ケレハ舟楫ノ利ヲ通スル能ハス學校無ケ  
 レハ兒童ヲ教ユル能ハス然ルニ若シ士民租稅  
 ヲ政府ニ納メサレバ何ヲ以テカ官ヨリシテ此  
 等要用ノ諸件ヲ設クルヲ得ンヤ是則租稅ヲ納  
 ムルハ各士民ノ務タル所以ナリ

第百九十五章

法國ニテ諸ノ契約書ヲ真正ノモノトナシ又相  
 子弟父母ノ遺物ヲ相續スル時之ヲ官署ノ簿冊  
 ニ登記スルニ付キ官ニ納ム可キ金ハ是亦租稅  
 ノ一部ニシテ苟モ詐欺ヲ述ヘ之ヲ免レント欲  
 スル者ハ其罰ヲ受ク



法律ハ至嚴至密ニシテ一定不變ノモノナリ故  
ニ士民ハ遲疑ナク之ニ循フ可ク必ス毫モ詐偽  
ヲ爲ス可カラス  
第百九十六章  
國益ノ爲メ止ムヲ得サル時ハ往々我所有ノ財  
産ヲ官ニ收ムルアリ然レトモ其時ハ必ス官  
ヨリ至當ノ償ヲ受ク  
兵役○報國志  
古ノ高名ナル學士、フシトノ曰ク人ノ此世ニ生  
ル、ヤ獨リ己ノ爲ノノミニ非ス亦國ノ爲メ族

人ノ爲メ朋友ノ爲メ衆庶ノ爲メ生レタルモノ  
ニシテ就中國ハ最モ愛ス可キモノナリ故ニ止  
ムヲ得サル時ハ國ノ爲メ其性命ヲ擲ツ可シ  
シセトノ曰ク  
我財貨我性命ハ我ニ屬スルモノニ非ス  
其實ハ皆我國ニ屬スルモノナリ  
故ニ士民ハ皆國ニ忠ヲ盡クシ泰平ノ日ハ其法  
令ヲ守リテ之ヲ修整シ外寇アル時ハ死ヲ怖レ  
ス之ヲ防護ス可シ  
家族集合シテ國ヲ爲スニ因リ士民己ノ家族ヲ  
防護セントスルニハ必ス其國ヲ防守ス可シ



國ノ爲メ忠義ヲ盡クサントスルニハ銳氣ナキ  
能ハス又流己ノ心ナキ能ハサルモノナリ故ニ  
勇ヲ奮テ國ノ爲メ防戦シ又ハ國ノ爲メ戦死シ  
タル士卒ハ皆其報賞ヲ受ケ國人之ヲ貴ミ其名  
ヲ史乘ニ記シテ後世ニ傳フ

第百九十八章

己ニ克チ國ノ爲メニ我カ財産我カ性命ヲ擲タ  
シトスル心ヲ名ケテ報國志ト云フ  
第百九十九章  
人其國ヲ愛敬スル猶其父母ヲ愛敬スルカ如ク  
ス可シ若シ國ニ於テ非理ノ事ヲ爲スト雖モ我

之ヲ怨ミテ其害ヲ爲ス可カラス

古ノ識者曰ク國ノ怒ハ猶父ノ怒ノ如ク決シテ

之ニ逆フコトナク順從耐忍以テ其怒ヲ慰ス可シ

若シ國ノ怒ニ觸レ己ノ罪ヲ謝セス害ヲ國ニ加

ヘシトスル者ハ大罪人トス

法國ノ法律ニ官許ナクシテ外國ニ仕ヘシ者ハ

法國人タルノ權ヲ失ヒ己ノ國ニ敵シテ戦フ者

ハ死刑ニ處テ之ヲ罰ス

羅馬ノ名將石リヲラシスハ數度國ノ敵ヲ敗リ

大功ヲ顯ハセシカ惜哉其國ヲ怒リ去テ國ノ敵

ニ與ミセシ故半生ノ名譽ヲ一時ニ失フタリ



功アリシガ後國ニ對シテ不平ヲ懷キ敵ノ謀計ニ加リ終ニ反逆人トナリテ全ク其名ヲ隕シタリ

第二百零二章

士民ハ兵トナリテ國ニ仕フ可キノニ非ス國ノ爲メ學業ノ教ヲ受ケ數多ノ利益ヲ蒙リタル恩ニ報イ其知識材智ヲ竭シテ國ニ益ヲナス可シ故ニ己ノ任ヲ受ケシ公務ハ勉メ書之ヲ從事シ常ニ公ケノ益ヲ先トシ私ノ益ヲ後トシ其職ヲ行フ可シ

第二百零一章

人ハ其身位ノ尊卑ヲ問ハス己ノ國ヲ裨益スルコトヲ忘ル可カラス夫農夫商估工丁ハ國ノ物産ヲ増シテ國益ヲ爲シ學士識者ハ衆庶ノ智心ヲ啓キテ國益ヲ爲ス猶兵士官吏ノ國益ヲ爲スニ異ナラス

第二百零二章

士卒ノ戰場ニ於テ死ヲ懼レズ奮戦スル者ノモ獨リ勇トセス醫士ノ傳染病ヲ懼レズ病者ヲ治療シ官吏ノ脅迫ヲ懼レズ其職ヲ行フ者皆之ヲ勇ナリトス蓋シ此ノ如キ勇アル者ヲ稱ス



アル者トス  
貧賤ノ者其窮乏不幸ニ屈セス難事ヲ推排シテ  
己ノ務ヲ行フハ是亦胆志アル者トス  
己ノ死ヲ懼レス人ノ性命ヲ救フ者ハ戰場ニ於  
テ勇ヲ奮ヒシ者ニ均シク勇アリトス

法國學士「クウザン」ノ曰ク政治ニ於テ官吏ノ膽  
志アリ戰場ニ於テ將士奮戰ノ勇アルカ如ク平  
時人ノ交ニ於テモ亦誠實正直ノ勇アリ

第二百三章

士民ノ國ニ對スル務ヲ概言スル時ハ其務ノ大  
旨趣タルモノニアリ一ハ國法ト官府トニ順從

スル事又一ハ國ニ報イ其益ヲナス爲メ己ノ身  
命ヲ顧サル事是ナリ自由ニ對シテ命令ニ從ハ  
ルハ士民自由ノ權ニ所有シ之權者自由ニ言フ  
入其自 第二百四章 一山人ノ自由ニ對シテ  
士民ノ國ニ報ウル務ニ換ヘ國法ニテ士民ニ左  
ノ權利ヲ授ク曰ク  
身體自由ノ權  
本身自由ノ權  
意思自由ノ權  
出板自由ノ權  
言詞自由ノ權



物件自由ノ權

是ナリ又其他士民邑會ノ議員トナリ或ハ州會ノ議員トナルノ權又ハ其議員ヲ撰ムノ權アリ

第二百五五章

人惡ヲ爲サス又他人ノ權利ヲ害セサレハ其欲スル所ヲ行ヒ其好ム所ヲ爲スヲ名ケ士民自由ノ權ト云フ

人其自由ノ權ヲ行フニ他人ノ自由ノ權ヲ妨クルヲ勿レ諭ヘハ今學校ノ生徒皆自由ニ言ヲ發シ自由ニ令ヲ下シ其自由ニ任セ校令ニ從ハサレハ學校ノ規則忽チ紊亂シテ互ニ相喧噪シ甲

サキタテ

者言ヲ發スル時ハ乙者亦說ヲ講シ竟ニ教ニ就クヲ能ハス故ニ之ヲ防ク可キ爲メ甲者言ヲ發スル時ハ乙者黙シテ之ヲ聽キ丙者事ヲ爲ス時ハ丁者慎テ之ヲ見テ互ニ其自由ノ害ヲ生セサルカ如ク士民自由ノ權ヲ行フモ亦之ニ異ナラス一人ノ自由ヲシテ他人ノ自由ヲ害スルヲナカラシム可シ故ニ若シ盜賊及ヒ其他惡業ヲ行フ者ヲシテ自由ノ權ヲ行ハシムル時ハ必ス衆庶自由ノ權ヲ害スルニ因リ此等ノ者ハ官ヨリ獄ニ繋キ其自由ノ權ヲ奪ヒ以テ之ヲ懲治ス



第二百六章

意思ハ他人ヨリ料知ス可カラサルモノナリ故  
 官ヨリ強テ之ヲ限制スルハ能ハス是レ意思  
 自由ノ權アル所以ナリ又出版自由ノ權言詞自  
 由ノ權ハ他人ノ自由ノ權ヲ害セサル時官ヨリ  
 之ヲ禁制ス可カラス

第二百七章

物件所有ノ權トハ國ノ禁令ヲ犯サレハ己ノ  
 物件ヲ自由ニ取扱ヒ自由ニ取用フルノ權ヲ云フ  
 人ニ自由ノ權アレハ又所有ノ權アル可シ蓋シ  
 父母ノ遺物トシテ受ケタル物件又ハ己ノ<sup>労働</sup>

ニ因リ得タル物件ハ自由ニ之ヲ取用ヒ自由ニ  
 之ヲ取扱フ可キニ因リ必ス其人ノ所有タル可  
 キノ道理アリトス

第二百九章

土地財本<sup>モト</sup>労働<sup>ラキ</sup>ノ三者ハ人其財産ヲ得ルノ基源  
 ナリ人此三者ヲ基源トシテ物件ヲ己ノ所有ト  
 爲シタル時ハ官威ト雖モ妄ニ其權ヲ奪フハ能  
 ハス是猶身體ノ自由ト意思ノ自由トヲ害スル  
 能ハサルカ如シ

二十八



土地財本ヲ有セサル者ハ勞動ト材智トニ因リ  
以テ富ヲ致ス<sub>レ</sub>得ヘ<sub>ル</sub>故<sub>ニ</sub>自由<sub>ノ</sub>富<sub>ハ</sub>

第二百十章

僅カノ財本ハ之ヲ聚蓄スル<sub>レ</sub>難キニ非ス士民  
其日ニ得ル所ノ金ヲ無益ニ費ス<sub>レ</sub>ナク約<sub>シ</sub>守  
リ用ヲ節シテ些少ト雖モ之ヲ貯ヘ數年ヲ經ル  
時ハ自カラ一ノ財本ヲ爲<sub>レ</sub>以テ製造貿易ノ用  
ニ充テ又ハ意外ノ禍災ヲ支フル<sub>レ</sub>資助トナス可<sub>シ</sub>

第二百十一章

節約ト勞動トハ人ニ満足ヲ得セ<sub>レ</sub>メ又往々富  
饒ヲ得セ<sub>レ</sub>ムル<sub>ノ</sub>源ナリ<sub>ル</sub>浪費ト遊惰トハ巨萬ノ

富ヲ有スル者モ頓ニ窮乏ニ至ラ<sub>レ</sub>ムル<sub>ノ</sub>源ナリ

人其職分ニ付テノ道

第二百十二章

前ニ記セ<sub>レ</sub>所ノ務ハ皆人民ノ爲サル可カラサ  
ルモノト雖モ士民各其職分身位ニ因リ其他尚  
爲ス可キ所アリ蓋<sub>シ</sub>勸善ノ道ハ固ヨリ唯一ニ  
シテ人ニ因リ位ニ因リ變更ス可キモノニ非ス  
故ニ職分ニ付テノ道トハ勸善ノ大道ヲ各其職  
分ニ應<sub>シ</sub>用フ可キモノヲ云フナリ

第二百十三章

人ノ職分ノ種類ハ枚舉スルニ遑アラス<sub>レ</sub>テ其



職分ニ應スル各務ハ之ヲ開載スルコト固ヨリ難  
レ因テ今此ニ其一ニテ舉ク

官吏學士ノ如キハ人ニ善ヲ教エ人ノ惡ヲ懲ス  
ヲ以テ其職分ト爲ス者ナリ故ニ他人ニ比スレ  
ハ更ニ不拔ノ志ヲ固クシ以テ善ニ從ヒ些少ノ  
過ト雖モ之ヲ行ハサルコト是其職分ニ付テノ道  
ナリ  
故ニ官吏其職ヲ行フニ過アル時ハ平民罰ヲ受  
ケサル輕罪ト雖モ必ス其罰ヲ受ク可シ譬ヘハ  
人ノ秘事ヲ漏洩スルハ過ハ平民之ヲ爲ス時法  
ニ於テ罰ヲ受クルコトナシト雖モ官吏國ノ密事

ヲ洩シシテ讞師訴訟者ノ秘事ヲ洩ス時ハ法ニ於テ  
之ヲ嚴罰ス

第二百十四章

人其忍ヒ難キヲ忍ヒ行ヒ難キヲ行フテ己ノ務  
ヲ爲スハ剛志ノ至大ナル者ナレハ其推排シ得  
タル難事ノ大ナルニ准シ衆庶ノ稱譽尊敬スル  
コト亦愈大ナリ故ニ官吏學士等私欲ニ誘惑セラ  
レズ剛志ヲ以テ平民ノ務ノ外更ニ其務ヲ行フ  
者衆之ヲ尊ミ官府之ヲ賞ス

貧富貴賤ノ別

第二百十五章



貧富貴賤ノ別ハ人ノ恣ニ定メタル所ニ非ス此  
賢愚強弱ノ互ニ相異ナルニヨリ自カラ生セシ  
モノナリ

斯ク貧富貴賤ノ別アルハ天然ニシテ人ノ設ケ  
タル所ニ非ス故ニ人亦全ク之ヲ廢スルヲ得ス  
人ノ賢愚強弱ハ大ニ相異ナリテ體弱ク智アル  
者ハ學藝ヲ勉ムルニ宜シク勞動ヲ爲スニ宜シ  
カラス體強ク智少キ者ハ勞動ヲ爲スニ宜シク  
靜坐修學ニ宜シカラズ蓋シ體ノ壯剛ナル者ニ  
ハ讀書ヲ爲ス可キ智ナキ者アリ又體ノ柔弱ナ  
ル者ニハ該博ノ識ヲ備フ可キ智アル者アリ

第二百十六章

人其職業ヲ行フテ其意ヲ遂ケ畢生間ノ幸福ヲ  
受用セント欲スルニハ己ノ家産己ノ智力己ノ  
嗜好ニ最モ適シタル職業ヲ擇ム可シボワロウ  
ト曰ク  
本傳聖汝詩文ノオナクシテ詩家文人タラント  
欲スル勿レ造營製作ノ能アラハ宜シク  
工匠トナルヘシト

第二百十七章

貧富貴賤ノ別ハ國ヲシテ和平ナラシムルノ要  
具ニシテ之ヲ天惠ノ一ナリト考フ可シ若シ人



ヲシテ其別ナカラシムル時ハ誰カ敢テ此世ヲ  
開化ノ域ニ進マシムル有益ノ職業ヲ爲ス者ア  
ランヤ

第二進ム法〇「フランクリン」ノ教誨

第二百十八章

米利堅ノ「フランクリン」ト云ハル人ハ電氣及ヒ

避雷柱等ノ大發明ヲ爲シタル學士ニシテ初メ

印書家ノ工夫ナリシカ次ニ記スル所ノ方法

ヲ用ヒ其過失ヲ改メテ勸善ノ徳ニ進ムヲ得終

ニ米國ノ高名ナル官長トナリ其名ヲ世ニ顯ハ

スニ至レリ百十六章

「フランクリン」ハ徳ヲ分チテ十二ト爲シ簡略ナ

ル註釋ヲ加ヘテ之ヲ簿冊ノ卷首ニ記シ日々其

簿冊ヲ看ル毎ニ心ヲ留メ其十二徳ノ中一トシ

テ怠ルコトナク殊ニ第一ハ飲食ヲ節スルノ徳ヲ

勉メ其簿冊ヲ見ル毎ニ己ノ其徳ニ背キシコトナ

キヤ否ヤ自カラ其本心ニ問ヒ若シ過アル時ハ

記號ヲ簿冊ニ附シテ自カラ警メタリ「フランク

リン」嘗テ自カラ之ヲ評シテ曰ク「  
園圃ヲ淨潔ニ爲ス者一時ニ園中ノ雜草

ヲ刈除セント欲スル時ハ力及ハスシテ

終ニ其業ヲ全廢スルヲ恐アリト雖モ先



以園中ノ一隅ヨリ之ヲ始メ其終ルニ及  
 テ然ル後復々他所ニ及ホシ漸ヲ逐テ業  
 ニ進ム時ハ全ク其業ヲ成就スルヲ得  
 リシ可シ因テ吾今我不徳ヲ一時ニ除去セン  
 欲スルト雖モ必ス其志ヲ遂ルヲ能ハ  
 サルヲ悟リ此ニ於テ毎日我カ過アル毎  
 ニ其記號ヲ此簿冊ニ附シ日ニ其記號ノ  
 數ノ減スルヲ以テ樂ミトス若シ漸ヲ逐  
 テ進ムニ進ニ數百日ヲ經ルノ後此簿冊ノ  
 白紙ノミトナルヲ得ハ我カ悅又殊ニ  
 大ナラントトナルヲ得ハ我カ悅又殊ニ

今ノ世ニアル少年輩モ「フ」ラシク「リ」テ規模ヲ  
 慕フ所謂十二ノ徳ヲ心ニ銘シ日々勉勵シテ之  
 ヲ行ハ時ハ終ニ徳ノ習ヲ得ルニ至ル可シ因テ  
 十二ノ徳ヲ左ニ記列ス

第一ハ「節制」ニ釋シテ曰ク昏迷スルニ至  
 ル迄飽饒スルヲ勿レテ曰ク大節ヲ無益ニ  
 第二ニ「沈黙」ニ釋シテ曰ク己ニ益アリ又  
 ハ人ニ益アル事ニ非サレハ言クヲ勿レ  
 第三ニ「順序」ニ釋シテ曰ク事物ニ皆次第  
 ヲ定メ事ヲ行フニ各順序ヲ以テス可シ  
 第四ニ「確志」ニ釋シテ曰ク己ノ爲ス可キ



事ハ必ス之ヲ爲スヲ決シ一旦決シタル所  
ハ必ス之ヲ遂ク可シ

第五 節儉 釋シテ曰ク己ノ爲メ人ノ

爲メ財ヲ有益ノ事ノニ用ヒ必ス之ヲ無

益ニ費スヲ勿レ

第六 勤勞 釋シテ曰ク光陰ヲ無益ニ

過スヲナク常ニ必ス有益ノ事ヲ勉ム可シ

第七 誠實 釋シテ曰ク人ヲ欺クヲナ

ク意志言詞共ニ誠ヲ以テス可シ

第八 公義 釋シテ曰ク人ニ損害ヲ加

フルヲナク人ノ恩ハ必ス之ニ報ウ可シ

第九 温和 釋シテ曰ク性情ノ度ニ過

クルヲ防キ人ヲ恨ムノ念ヲ制止ス可シ

第十 清潔 釋シテ曰ク衣服身體家屋

ヲ不潔ニナスヲ勿レ

第十一 寧靜 釋シテ曰ク小事ヲ以テ輕

卒ニ心ヲ動スヲ勿レ

第十二 謙遜 釋シテ曰ク人ニ對シ驕傲

ナルヲ勿レ

泰勸善訓蒙卷之下終



明治八年十二月廿日版權免許

譯述者後五位

東京府士族 箕作麟祥

同府平民

同府兩國藤代町 柳川梅二郎

同府本町二丁目九番地

愛知縣平民

鬼頭平兵衛

名古屋區玉屋町四丁目六番地

東京府平民

山中市兵衛

芝區三鷹町十番地

發兌人

出版人

同



